

夢の実現に向けて

京都府・京都市立嵯峨中学校 3年 竹内 遙

私は将来ジュエリーデザイナーになりたい。自分の作ったもので人を幸せにするのが夢だ。

それにはこんな理由がある。私は小学校のとき『ビーズ編み』というものを始めた。ビーズ編みとは透明な糸にビーズを通し様々な形に編み上げていくものだ。低学年の頃はただビーズの輪っかを作るだけだった。しかし高学年になると知恵を働かせ立体的なモチーフや、豪華なアクセサリが作れるようになった。そのため、その頃から私は友達や近所、親戚の人たちからたびたびアクセサリなどを作ってほしいと頼まれるようになった。そして作ったものを届けると依頼主は決まって嬉しいと幸せそうな笑顔を私にくれた。その笑顔を見るたびにいつしか私は将来こんな仕事がしたいと思うようになったのだ。ハロワークの図鑑でたくさん調べた結果、ジュエリーデザイナーが最適だと分かった。私の個性や可能性を伸ばすことができる。何より人に幸せを与えられる。素晴らしい仕事を見つけられた。

私はこの夢を担任の先生に話したことがある。先生から「ジュエリーデザイナーになるなら多くの人に好かれるデザインをきなさい。少数の人だけに気に入ってもらえても、その人たちまで買ってくれなくなったら続けていけないよ。」と教えてもらった。また、総合学習の時間に販売業の方たちから「作品ではなく商品を作ることが大切。作品を作ってもお客さんは買ってくれないから。」と学んだ。だから私は買ってもらう人の気持ちを考え、幅広い世代・多くの国の人々に親しまれるようなジュエリーデザイナーになろうと心に決めている。

ジュエリーデザイナーになるために中学卒業後は美術高校・美術大学へと進み自分の美的センスを磨く。そして宝石専門学校で本格的にジュエリーを勉強し、その後はインターンだ。熱心に働き実力をつけてお金も貯め、いつかは自分の店を持ちたい。

しかし自分の店やブランドを持つと、なかなか一人では進めていけない。店員を募集する必要がある。そうすると店員の給料をきちんと支払う義務が出てくる。義務を果たすために『最低賃金制度』は頭に入れておきたいものだ。労働者に対する最低賃金は各都道府県においてばらつきがあるが平均すると時給700円前後だ。私は最低賃金より安い賃金を労働者に支払っていたという事件を

以前新聞で読んだことがあるのだが、これは最低な行為だと思う。精を出して働いた人に対してやってはいけないことだ。制度を知らなかったからではこの社会には通用しないため、気を付けたい。自分の利益を考えず、初心を忘れないでおこう。

そしてもう一つ頭に入れておきたいものがある。それは『税』だ。数ある税の中で私は『消費税』しか知らなかった。調べてみると驚くほど税の種類があった。自分の店を持つと関係してくるのは『消費税』と『事業税』だと分かった。最近税を国に納めない人がいるようだが、私はきちんと納めたい。今のお年寄りを守るため、そして自分の退職後の人生を豊かにするためだ。私の父は税理士なので、今後税について父から学ぶつもりだ。

多くの人たちに親しまれるジュエリーを作るにあたっては、デザインが大いに関係するだろう。デザインの視野を広げるために私はアメリカやヨーロッパに留学したい。様々な国の文化や思想を取り入れたジュエリーはきっと人々の目を引くにちがいないと思うからだ。それに大きい夢かもしれないが外国にも自分の店を持てばより多くの人を幸せにできる。またジュエリーとは呼べないが、金や銀をアルミニウムに、宝石をビーズにした子供向けの商品を売り出しても楽しんでもらえるのではないだろうか。私の特技であるビーズ編みを生かしたアクセサリーだ。さてデザインだけでなく値段にも目が向けられるだろう。宝石の仕入れ先や消費者といった人脈を築くことが肝心だ。そのためにマナーや礼儀はきちんと身に付けよう。

今私が想像している夢や社会は甘く、現実はもっと厳しいと思う。そしてまだ知らない多くの制度や世界があるはずだ。でも大人に近づくにつれて夢を叶える力を付けていきたい。社会に対応できる力を付けていきたいと思っている。